

デスクトップインストールガイド

*Sun Java™ System Connector
for Microsoft Outlook*

Version 6.0

817-6728-10
2004 年 2 月

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は <http://www.sun.com/patents> に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。

このソフトウェアは米国 Sun Microsystems 社の機密情報と企業秘密を含んでいます。米国 Sun Microsystems 社の書面による許諾を受けることなく、このソフトウェアを使用、開示、複製することは禁じられています。

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook、Java、Solaris、JDK、Java Naming and Directory Interface、JavaMail、JavaHelp、J2SE、iPlanet、Duke のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴ、Solaris のロゴ、SunTone 認定ロゴマークおよび Sun ONE のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Legato および Legato のロゴマークは Legato Systems, Inc. の登録商標であり、Legato NetWorker は同社の商標または登録商標です。Netscape Communications Corp のロゴマークは Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本マニュアルに情報が記載されている製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

目次

図目次	5
このマニュアルについて	7
第1章 デスクトップでのソフトウェアのインストールと設定	11
セットアップ手順について	11
システム要件	11
大きな pst ファイルの変換が中断された場合	11
セットアップ手順	12
手順 1: セットアップウィザードの起動	12
手順 2: Microsoft Web 発行ウィザードのインストール	14
手順 3: 変換する Outlook ユーザープロファイルの選択	15
手順 4: 変換する個人用フォルダ (.pst) ファイルの選択	17
手順 5: Exchange のアカウントログイン情報の入力	19
手順 6: 新しい Sun Java System アカウントログイン情報の入力	20
手順 7: 保護された個人用フォルダ (.pst) ファイルのパスワードの入力	21
手順 8: 進行状況メーター	23
手順 9: 終了	25
第2章 特殊な環境に関するアプリケーションノート	27
Microsoft Outlook がデフォルトの電子メールクライアントでない場合	27
Sun ONE Sync プログラムがインストールされており、削除する必要がある場合	28
個人用フォルダ (.pst) ファイルの変換が中断された場合	29
索引	31

図目次

図 1-1	セットアップウィザード: 「ようこそ」画面	12
図 1-2	セットアップウィザード: 最小インストール要件を確認中	14
図 1-3	セットアップウィザード: 変換する Outlook ユーザープロファイルを選択	16
図 1-4	セットアップウィザード: 変換する個人用フォルダ (.pst) ファイルを選択	18
図 1-5	セットアップウィザード: Microsoft Exchange のメールボックス情報を入力	19
図 1-6	セットアップウィザード: Sun Java System のユーザー情報を入力	20
図 1-7	セットアップウィザード: 個人用フォルダ (.pst) ファイルのパスワードを入力	22
図 1-8	セットアップウィザード: 「ユーザープロファイルを変換中」(進行状況メーター)	23
図 1-9	セットアップウィザード: バックグラウンドプロセスでの .pst 変換を完了中	24
図 1-10	セットアップウィザード: セットアップの完了	25
図 1-11	セットアップウィザード: セットアップ失敗	26
図 2-1	中断された変換を完了させるには: デスクトップの「Finish」アイコン	29
図 2-2	セットアップウィザードの「Welcome」画面: 中断された変換を再開させるには	30

このマニュアルについて

このマニュアルでは、セットアップウィザードを使用して、Sun Java™ システム Connector for Microsoft Outlook をデスクトップにインストールして設定する方法について説明します。Sun Java System Connector for Microsoft Outlook により、Sun Java System サーバーとの接続中に、Microsoft Outlook を電子メールおよびカレンダーアプリケーションとして使用できるようになります。この Connector ソフトウェアは、Outlook と Sun Java System サーバー間で必要な継続通信を実行します。したがって、新しいメールボックスにアクセスし、カレンダーやアドレス帳などの Outlook 機能を十分に活用できます。

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook ソフトウェアは、全ユーザーのデスクトップにインストールして設定する必要がありますが、インストール後は、実質的に見えなくなります。バックグラウンドで自動的に動作し、保守作業を一切必要としません。

ネットワークのシステム管理者が、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook をデスクトップにインストールして設定するための、セットアップウィザードと呼ばれる特別なインストールパッケージを用意しています。このインストールパッケージは、インストールプロセスを単純化し自動化して、ユーザーが単独で技術情報を入力したり技術的な選択を行う場合に費やす時間と労力を節約するように設計されています。セットアップウィザードに含まれる変換プログラムによって、古いメッセージ、アドレス帳、連絡先、カレンダーデータなど、デスクトップに格納された既存の Outlook データを、Connector for Microsoft Outlook ソフトウェアで使用できる新しい形式に自動的に変換できます。

この序文では、次のトピックについて説明します。

- [対象読者](#)
- [必要な知識](#)
- [このマニュアルの構成](#)
- [マニュアルの表記上の規則](#)
- [関連マニュアル](#)

- [オンラインマニュアル](#)

対象読者

このマニュアルは、デスクトップに Sun Java System Connector for Microsoft Outlook をインストールする予定のユーザーを対象としています。

必要な知識

このマニュアルでは、読者が自分自身のデスクトップに Connector for Microsoft Outlook ソフトウェアをインストールをすること、次の一般的な知識を習得していることを想定しています。

- インターネットおよび WWW
- 次のプラットフォームでのソフトウェアのインストール
 - Microsoft Windows 2000
 - Microsoft Windows XP
- Microsoft Outlook

このマニュアルの構成

このマニュアルには、この「[このマニュアルについて](#)」に続いて、次の2つの章があります。

- [第1章「デスクトップでのソフトウェアのインストールと設定」](#) : Connector ソフトウェアをインストールして設定するセットアップウィザードを実行するための操作手順とアプリケーションノート
- [第2章「特殊な環境に関するアプリケーションノート」](#) : セットアップウィザードの実行中に生じることがあるいくつかの問題を解決するための情報と手順

マニュアルの表記上の規則

このマニュアルでは、ファイルとディレクトリパスは、Windows 形式で表記されます (ディレクトリまたはフォルダ名を円記号で区分)。Sun Java System の他のマニュアルを参照する場合は、UNIX の表記規則でファイルおよびディレクトリパスが表されています (ディレクトリをスラッシュで区分)。

- モノスペースフォントは、コンピュータの画面に表示されるテキストまたは入力するテキストに使用されます。また、ファイル名、識別名、関数、および例にも使用されます。
- ボールドモノスペースフォントは、コード例の中で入力するテキストを表します。
- イタリック体フォントは、インストールに特有の情報を使用して入力するテキストを表します (変数など)。これはサーバーのパスと名前に使用されます。

たとえばファイル参照は、次の形式で記述されます。

```
ISTORE $x$ .LOG
```

この場合、 x は曜日を示す数値になります。

イタリック体フォントは、コマンド行ユーティリティの使用例内の変数またはパラメータにも使用されます。たとえば、インストールパッケージは、次のコマンド行ユーティリティをサポートしています。

```
/USERNAME= $xxx$ 
```

この例では、関連するコマンドの引数がイタリック体フォントです。 xxx は、サーバーの UserID を示します。

- 角カッコ [] は、オプションパラメータを囲むために使用されます。たとえば、`setup` コマンドが次のように記述されている場合があります。

```
installer [options] [arguments]
```

次のように `installer` コマンドを単独で実行して、Messaging Server のインストールを開始することができます。

```
setup
```

ただし、[options] と [arguments] は、`setup` コマンドに追加できるオプションのパラメータがあることを示しています。たとえば、次のように `-k` オプションを付けて `setup` コマンドを使用すると、インストールキャッシュを保持できます。

```
setup -k
```

関連マニュアル

Sun Java System 製品パッケージには、Sun Java System Messaging Server (旧称 Sun ONE™ Messaging Server)、Sun Java System Calendar Server (旧称 Sun ONE Calendar Server) などの他の製品も含まれています。これらの製品に関するマニュアルは、次の URL にあります。

- Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のマニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun ONE Messaging Server 6.0 のマニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun ONE Calendar Server 6.0 のマニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

オンラインマニュアル

PDF および HTML 形式の『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook デスクトップインストールガイド』を、オンラインで閲覧できます。このマニュアルは、次の URL にあります。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

デスクトップでのソフトウェアのインストールと設定

セットアップ手順について

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook をデスクトップにインストールする手順は、ユーザーの現在のシステム設定や、以前の Outlook の形式から新しい形式に変換するデータの量 (変換するデータがある場合) などの要因に応じて異なる可能性があります。このマニュアルでは、さまざまなユーザーに表示される可能性のあるすべての画面表示について説明しますが、ユーザーがすべてを目にすることはほとんどないため、該当しない画面表示はスキップします。

システム要件

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook に必要な要件は次のとおりです。

- オペレーティングシステム : Windows 2000 または Windows XP (他のオペレーティングシステムではセットアップウィザードが起動しません)
- デフォルトの電子メールクライアントとして設定された Microsoft Outlook
- Office 2000 Service Pack 3 以上をインストールした Outlook 2000、または Office XP Service Pack 2 以上の Outlook 2002

大きな pst ファイルの変換が中断された場合

大きなファイルの変換が完了する前に (停電などによって) 中断された場合は、セットアップウィザードの復旧機能を利用すると、最初からやり直すことなく、中断された変換を完了できます。この状況が実際に発生した場合は、[第 2 章の「個人用フォルダ \(.pst\) ファイルの変換が中断された場合」](#)を参照してください。

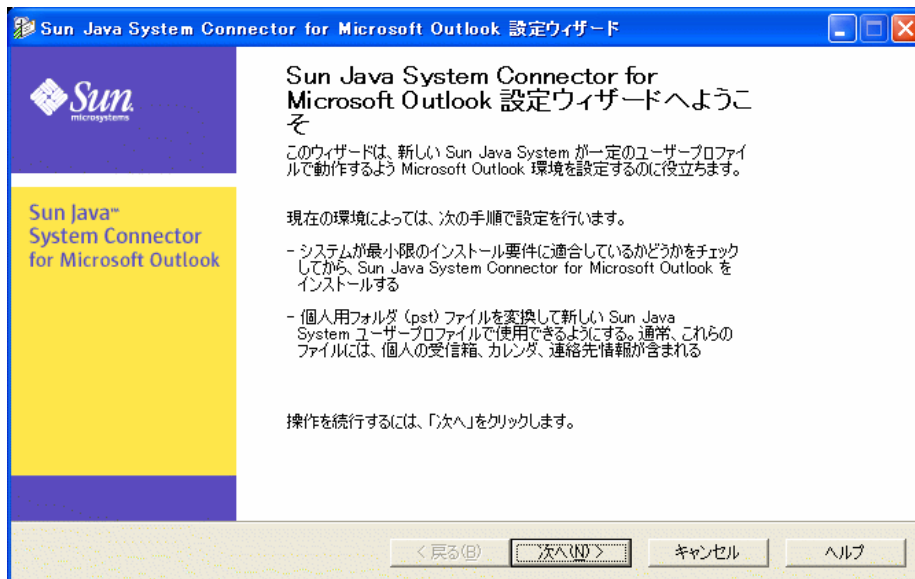
セットアップ手順

ここでは、デスクトップに Sun Java System Connector for Microsoft Outlook をインストールして設定するために必要な手順について説明します。

手順 1: セットアップウィザードの起動

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook セットアップウィザードの起動方法は、ネットワーク管理者が説明します。ほとんどの場合、「スタート」ボタンからプログラム名を探るか、デスクトップでアイコンをクリックするか、ネットワークの特定の場所を参照して起動します。どんな方法でセットアップウィザードを開始した場合でも、手順は、図 1-1 に示す「ようこそ」画面から始まります。

図 1-1 セットアップウィザード: 「ようこそ」画面



1. 「ようこそ」画面の「次へ」をクリックします。

セットアップウィザードは、システムが次の条件を満たしているかどうかを調べます。

- Microsoft Outlook がデフォルトの電子メールクライアントとして指定され、使用する Outlook のバージョンを Connector ソフトウェアがサポートしていること

- Connector ソフトウェアと互換性のない Sun ONE Sync プログラムがインストールされていないこと

Outlook が、デフォルトの電子メールクライアントとして設定されていない場合、または Sun ONE Sync プログラムがインストールされている場合は、ウィザードがこれを通知し、確認の上プログラムを終了するように指示します (問題を解決した後で、このセットアップウィザードを再度実行できます)。これらの問題を解決するには、このマニュアルの第 2 章の以下の節に記載した情報と手順を参照してください。

- 「Microsoft Outlook がデフォルトの電子メールクライアントでない場合」
- 「Sun ONE Sync プログラムがインストールされており、削除する必要がある場合」

同様に、Outlook のバージョンがサポートされていない場合もウィザードが問題を通知し、プログラムを終了するように指示します。サポートされているバージョンの Outlook にアップグレードすれば、セットアップウィザードを再度実行できます。

これ以外の場合、つまり、サポートされているバージョンの Outlook がデフォルトの電子メールクライアントに設定されていて、Sun ONE Sync プログラムがインストールされていない場合、セットアップウィザードは、必要なファイルをコンピュータにコピーして、システムに Microsoft Web 発行ウィザード (WPW) がインストールされているかどうかを調べます。WPW は、空き時間スケジュールを社内のユーザーと共有できるようにするためのコンポーネントです。

2. Microsoft Web 発行ウィザードがすでにインストールされているかどうかに応じて、手順が異なります。
 - WPW がすでにインストールされている場合：ウィザードは、このインストールおよびセットアッププロセスの次の手順に進みます。スキップして、「手順 3: 変換する Outlook ユーザープロファイルの選択」に進んでください。
 - WPW がインストールされていない場合：WPW をここでインストールするように求められます。「手順 2: Microsoft Web 発行ウィザードのインストール」に進んでください。

手順 2: Microsoft Web 発行ウィザードのインストール

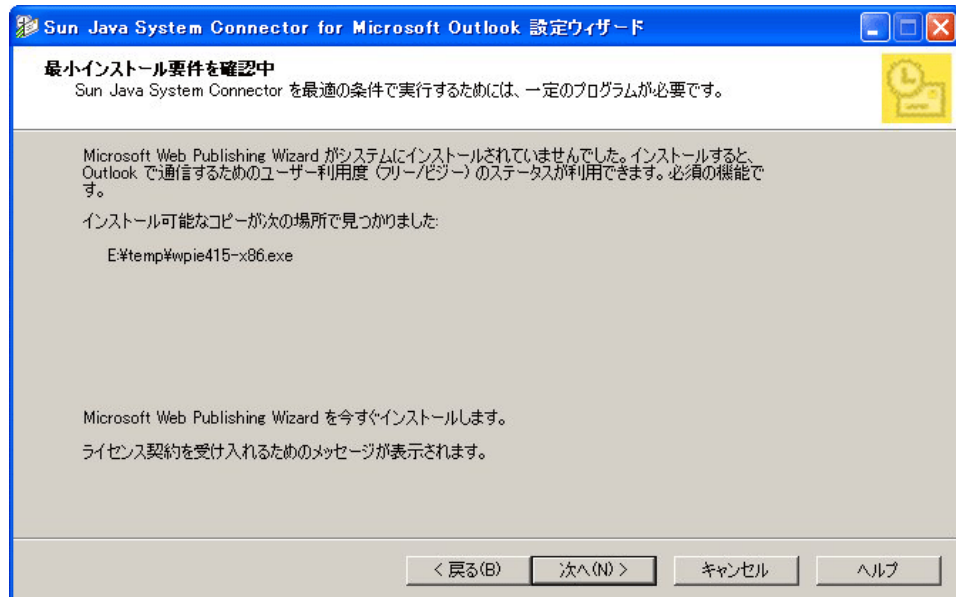
Microsoft Web 発行ウィザード (WPW) がコンピュータにすでにインストールされていることを、セットアップウィザードが検出した場合、この画面は表示されません (この手順 2 をスキップできます)。ただし、WPW がコンピュータにインストールされていない場合は、ここでインストールする必要があります。

ネットワーク内のインストール可能な WPW のコピーのファイル名と場所 (パス) は、システム管理者によってあらかじめ指定されており、[図 1-2](#) に示すように、その情報が表示されます。WPW をインストールするには、次の手順に従います。

1. 「次へ」をクリックします。
WPW の使用許諾契約が表示されます。
2. 使用許諾契約全体を読み、条項に同意する場合は「はい」を、同意しない場合は「いいえ」をクリックします。

「はい」と答えた場合：インストールキットによって WPW がコンピュータにインストールされ、セットアップウィザードはインストール処理の次の段階に進みます。「[手順 3: 変換する Outlook ユーザープロファイルの選択](#)」に進んでください。

図 1-2 セットアップウィザード: 最小インストール要件を確認中



「いいえ」と答えた場合：インストールキットによって WPW がコンピュータにインストールされることはなく、セットアップウィザードによる Sun Java System Connector のインストール処理全体が中止されます (セットアップウィザードによって WPW がインストールされてインストール処理が続行されるのは、「はい」 ボタンをクリックして WPW 使用許諾契約に同意した場合だけです)。

手順 3: 変換する Outlook ユーザープロファイルの選択

管理者が既存のプロファイルを変換するようにセットアップウィザードを設定しているときに、セットアップウィザードが次のいずれかを検出した場合にのみ、[図 1-3](#) に示す画面が表示され、注意を促します。

- コンピュータ上の Exchange サーバーに接続している適格な Outlook ユーザープロファイルが複数存在する場合
- 適格なプロファイルは 1 つしかないが、それがデフォルトとして設定されていない場合

「適格」なプロファイルとは、次のような Outlook プロファイルです。

- Microsoft Exchange Server メッセージサービスが含まれている
- 以前実行したセットアップウィザードによって (変換される .pst ファイルのすべてが) 完全には変換されていない

図 1-3 セットアップウィザード: 変換する Outlook ユーザープロファイルを選択



POP3 サーバーを指しているプロファイルなど、不適格なプロファイルは無視されません。

ウィザードが検出した適格なユーザープロファイルが 1 つだけであり、そのプロファイルがデフォルトのプロファイルとして指定されている場合、ウィザードは、この 1 つの適格なプロファイルを新しいソフトウェア用に変換するものと想定し、この画面をスキップします。スキップして、「[手順 4: 変換する個人用フォルダ \(.pst\) ファイルの選択](#)」に進んでください。

同様に、ウィザードが、変換する適格なユーザープロファイルを検出せず、この場合に新しいユーザープロファイルを作成するように管理者が設定していた場合も、この手順 3 は適用されません。さらに手順 4 と 5 もスキップできます。「[手順 6: 新しい Sun Java System アカウントログイン情報の入力](#)」から再開してください。

この画面では、新しい Sun Java System Connector ソフトウェアで使用するために変換する Outlook ユーザープロファイルを 1 つ選択します。Outlook を起動したときに表示されるダイアログボックスと非常に似ています。

変換するプロファイルを選択するには、次の手順に従います。

1. ドロップダウンリストボックスを使用して、変換するプロファイルを選択します。
2. 「次へ」をクリックします。

セットアップウィザードを使用して2つ以上のプロファイルを変換できますが、一度に変換できるのは1つだけです。そのため、変換するプロファイルごとに、セットアップウィザードを再度実行する必要があります。

「次へ」をクリックすると、セットアップウィザードは、選択したユーザープロファイルに関連するすべての個人用フォルダ (.pst) ファイルを検索します。「[手順 4: 変換する個人用フォルダ \(.pst\) ファイルの選択](#)」に進んでください。

手順 4: 変換する個人用フォルダ (.pst) ファイルの選択

セットアップウィザードでは、Exchange ユーザーの連絡先、履歴、およびメモのデータを、ローカル (デスクトップ) の Sun Java System Connector の個人用フォルダ (.pst) ファイルに変換できます。セットアップウィザードで、ネットワーク管理者が指定したファイルサイズの制限を超える個人用フォルダ (.pst) ファイルが1つまたは複数検出された場合に限り、この画面が表示され、注意を促します。個人用フォルダファイルのサイズが「大きく」ない場合、この手順はスキップされます。スキップして、「[手順 5: Exchange のアカウントログイン情報の入力](#)」に進んでください。

ウィザードで、1つまたは複数の「大きな」個人用フォルダが検出された場合は、[図 1-4](#) に示すように、これらの大きなファイルのうち今回変換するファイルを指定するように求められます。

図 1-4 セットアップウィザード: 変換する個人用フォルダ (.pst) ファイルを選択



セットアップウィザードは、該当するファイル名の左のボックスにチェックマークが付いているファイルだけを変換します。表示されるリストには、制限より小さな .pst ファイルが含まれることがありますが、それらは自動的に変換するよう選択され、グレー表示されます (選択を解除することはできません)。

これらのファイルが変換され、電子メールアドレスを使用できるようになります。変換されていない電子メールメッセージを読むことはできますが、変換されていないアドレスは新しいサーバーにとって理解できない形式であるため、それらに返信することはできません。一方、古いメッセージを大量に変換すると、時間がかかることがあります。個人用ストアのデータが数 G バイトに達している場合は、数時間に及ぶこともあります。変換はバックグラウンドで行われ、コンピュータで他の作業を行えますが、他のアプリケーションのパフォーマンスが低下する可能性があります。このため、非常に古い個人用ストアがあり、データを保管して読みたくても将来返信する可能性がほとんどないような場合は、これを変換しないように選択することもできます。また、単純に、大きなファイルの変換を昼休みや夜間などの後の機会まで遅らせることもできます。

1. 今回変換するすべてのファイルを選択していること、および変換しないファイルを選択していないことを確認します。

チェックマークを追加または削除するには、ボックスをクリックします。

2. 「次へ」をクリックします。

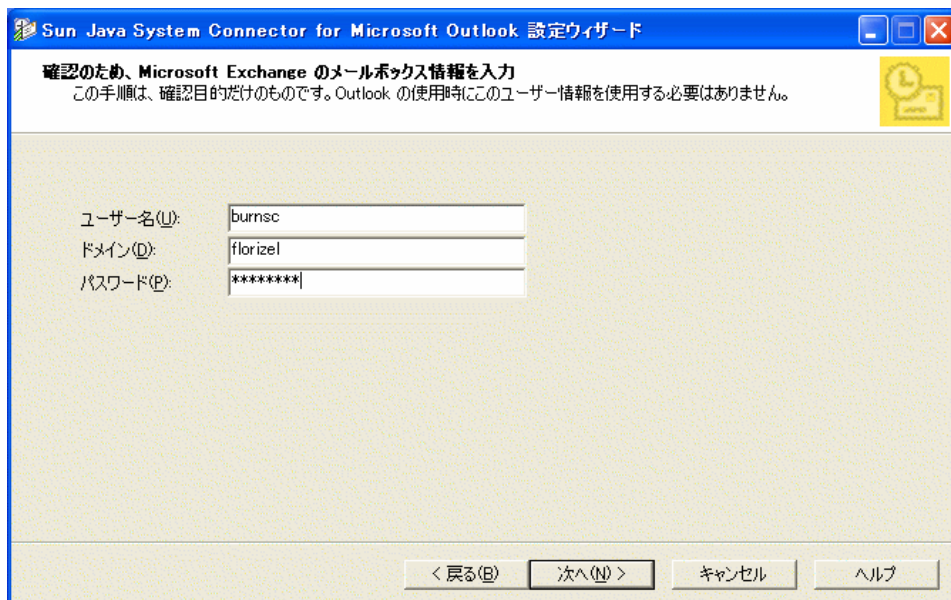
以前の Microsoft Exchange メールボックスの個人用ログイン情報を入力するように求められます。「手順 5: Exchange のアカウントログイン情報の入力」に進んでください。

手順 5: Exchange のアカウントログイン情報の入力

選択したユーザープロファイルを使用してログインするとき、これまでこのコンピュータで Outlook を使用しており、この情報の入力が必要になるようにシステムが設定されている場合に限り、図 1-5 に示す画面が表示され、注意を促します。

Exchange サーバーに既存のアカウントを持たない新しい電子メールユーザーの場合、または、ログイン時にこの情報を必要としないようにシステムが設定されている場合、この画面は表示されません。スキップして「手順 6: 新しい Sun Java System アカウントログイン情報の入力」に進んでください。

図 1-5 セットアップウィザード: Microsoft Exchange のメールボックス情報を入力



Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 設定ウィザード

確認のため、Microsoft Exchange のメールボックス情報を入力
この手順は、確認目的だけのものです。Outlook の使用時にこのユーザー情報を使用する必要はありません。

ユーザー名(U): burnsc
ドメイン(D): florizel
パスワード(P): *****

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

以前の Microsoft Exchange メールボックスに関する必要な情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「ユーザー名」に、Exchange メールボックスに関連付けられている Windows アカウント名を入力します。

2. 「ドメイン」に、Windows アカウントが存在するドメインを入力します。
3. 「パスワード」に、Windows アカウントのパスワードを入力します。
4. 「次へ」 ボタンをクリックします。

次に、新しい Sun Java System アカウントの個人用ログイン情報を入力するように求められます。「手順 6: 新しい Sun Java System アカウントログイン情報の入力」に進んでください。

手順 6: 新しい Sun Java System アカウントログイン情報の入力

この画面 (図 1-6) は、すべてのユーザーのセットアップ手順の一部として表示されます。ここで新しい Sun Java System サーバーのログイン資格情報を入力します。

図 1-6 セットアップウィザード: Sun Java System のユーザー情報を入力

ネットワーク管理者がすでに情報を入力している場合、この画面のフィールドの一部がグレー表示されることがあります。同様に、Outlook にログインするたびにユーザー名とパスワードを常に要求する、または一切要求しないように管理者があらかじめ設定している場合は、「ユーザー名とパスワードを保存」チェックボックスは表示されません。

新しい Sun Java System アカウントに関する必要な情報を入力するには、次の手順に従います。

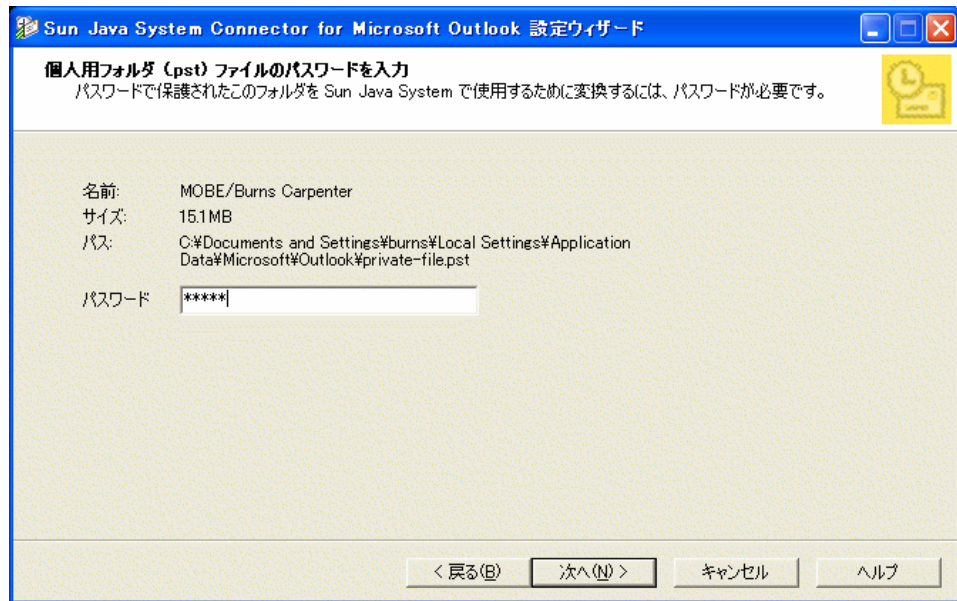
1. 「フルネーム:」に、送信メールメッセージの「差出人」フィールドに表示される名前を入力します。これは、メッセージの受取人に表示される表示名です。
2. 「電子メールアドレス:」に、インターネット電子メールアドレスを入力します。
3. 「ユーザー名」に、アカウント名を入力します。
4. 「パスワード」に、Sun Java System アカウントのパスワードを入力します。
5. この画面に「ユーザー名とパスワードを保存」チェックボックスが表示されている場合、このオプションを選択、または選択解除して、Outlook を起動するたびにログイン情報を入力する必要がないようにするかどうかを指定します。
6. 「次へ」ボタンをクリックします。

セットアップウィザードは、変換するようにスケジュールされた個人用フォルダ (.pst) ファイルが、パスワードで保護されているかどうかを確認します。「[手順 7: 保護された個人用フォルダ \(.pst\) ファイルのパスワードの入力](#)」に進んでください。

手順 7: 保護された個人用フォルダ (.pst) ファイルのパスワードの入力

[図 1-7](#) に示す画面は、このセットアップ手順で、変換対象として選択した個人用フォルダ (.pst) ファイルがパスワードで保護されており、そのパスワードがパスワードリストに保存されていない場合に表示されます。この画面は、変換するようスケジュールされているパスワードで保護された .pst ファイルごとに再表示されます。.pst ファイルがすべてパスワードで保護されていない場合、またはファイルのパスワードのすべてがパスワードリストに保存されている場合、セットアップウィザードは、選択されたユーザープロファイルと .pst ファイルの変換を開始します。スキップして「[手順 8: 進行状況メーター](#)」に進んでください。

図 1-7 セットアップウィザード: 個人用フォルダ (.pst) ファイルのパスワードを入力



画面には、パスワードで保護された個人フォルダファイル (.pst ファイル) の名前、サイズ、および場所 (パス) が表示され、そのファイルを開くために必要なパスワードを入力します。

1. 表示された .pst ファイルに関連付けられたパスワードを入力します。
2. 「次へ」をクリックします。

パスワードを必要とする最後の .pst ファイルのパスワードを入力すると、ユーザープロファイルの変換が開始されます。「手順 8: 進行状況メーター」に進んでください。

手順 8: 進行状況メーター

図 1-8 に示す画面にはウィザードの進行状況が示されます。ここでは、選択したユーザープロファイルと「小さな」個人用フォルダ (.pst) ファイルが処理され、いくつかのデータ (連絡先、メモ、および履歴) が Exchange サーバーからローカルストアにコピーされます。このコピーによって、新しい Sun Java System サーバーで Outlook の使用を開始するときに、このデータを利用できるようになります。

図 1-8 セットアップウィザード: 「ユーザープロファイルを変換中」 (進行状況メーター)



これらの手順が終了したら、次のどちらかの手順に進みます。

- 「大きな」個人用フォルダ (.pst) ファイルが変換されない場合: 作業が終了したことを知らせる通知画面が表示されます。「手順 9: 終了」に進んでください。
- 「大きな」個人用フォルダ (.pst) ファイルが変換される場合: 図 1-9 に示すように、プロファイルの変換が完了したことを通知し、大きな個人用フォルダファイルの変換を開始します。

図 1-9 セットアップウィザード:バックグラウンドプロセスでの .pst 変換を完了中



大きな個人用フォルダ (.pst) ファイルの変換を開始するには、次の手順に従います。

1. 「次へ」をクリックします。

セットアップウィザードが最小化されてタスクバーに収まり、変換はバックグラウンドで実行されます。プロファイルの変換はすでに完了しているため、大きな個人用フォルダファイルの変換を続けていても、新しい Sun Java System サーバーで Outlook の使用をすぐに開始できます。大きな個人用フォルダファイルの変換は、変換するファイルのサイズによっては、数分または数時間かかることがあります。

2. 変換のリアルタイムの進捗を示す進行状況メーターを表示するには (オプション)、セットアップウィザードをタスクバーから表示ウィンドウに戻します。

どちらの場合でも、変換が完了したときは、自動的にウィザードの通知画面が表示されます。「手順 9: 終了」に進んでください。

手順 9: 終了

この「終了」画面は、セットアップウィザードで問題なく Sun Java System Connector for Microsoft Outlook をインストールできたかどうかによって異なります。画面のタイトルに、成功したか失敗したかが表示されます。

- 「Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の設定を完了中」：この画面 (たとえば図 1-10) は、変換およびセットアップ処理全体が正常に完了したことを示します。この画面を閉じてセットアップウィザードを終了するには、「終了」ボタンをクリックします。

おめでとうございます。Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のセットアップ手順はこれで完了しました。新しい Sun Java System サーバーで Outlook の使用を今すぐ開始できます。

図 1-10 セットアップウィザード: セットアップの完了



- 「Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の設定に失敗」：セットアップウィザードによるインストール処理が中止された場合、画面にその理由が表示されます。セットアップに失敗した場合、この画面 (図 1-11) にはプログラムのログファイルの内容を表示するための「ログを表示」ボタンが表示されます。このログファイルには、問題の診断に役立つ追加情報が示されていることがあります。

図 1-11 セットアップウィザード: セットアップ失敗



セットアップ失敗の原因は、次の 4 つの問題のどれかです。

- Microsoft Outlook がデフォルトの電子メールクライアントとして設定されていない。この問題を修正するための情報および手順については、「[Microsoft Outlook がデフォルトの電子メールクライアントでない場合](#)」を参照
- 互換性のない Sun ONE Sync プログラムがコンピュータ上に存在することが検出された。この問題を修正するための情報および手順については、「[Sun ONE Sync プログラムがインストールされており、削除する必要がある場合](#)」を参照
- Connector ソフトウェアと互換性のないバージョンの Microsoft Outlook または Office Service Pack を実行している。この問題の詳細については、『デスクトップインストールガイド』の第 1 章の最初にある「システム要件」を参照
- Microsoft Web 発行ウィザード (WPW) の使用許諾契約に同意しなかった。Sun Java System Connector for Microsoft Outlook ではこの同意が必要。WPW がなければ Connector ソフトウェアはインストールされず、また、使用許諾契約に同意しなければ WPW はインストールされない。

セットアップウィザードによるインストールが正常に完了したかどうかに関係なく、この画面を閉じてセットアップウィザードを終了するには、「終了」ボタンをクリックします。

特殊な環境に関するアプリケーションノート

Microsoft Outlook がデフォルトの電子メールクライアントでない場合

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook は、Microsoft Outlook がデフォルトの電子メールクライアントに設定されている場合にのみインストールできます。Outlook がデフォルトの電子メールクライアントに設定されていない場合、セットアップウィザードは、この問題を通知し(「ようこそ」画面の後にエラーメッセージを表示)、確認の上プログラムを終了するよう指示します。次の手順に従って、デフォルトの電子メールクライアントを Outlook に設定した後で、セットアップウィザードに戻ることができます。

1. Windows のコントロールパネルを開きます。Windows XP を実行している場合のみ、「クラシック表示に切り替える」を選択します。
2. 「インターネット オプション」をダブルクリックします。
3. 「インターネットのプロパティ」ウィンドウの「プログラム」タブを選択します。
4. 「電子メール」のプルダウンメニューから「Microsoft Outlook」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。

Sun ONE Sync プログラムがインストールされており、削除する必要がある場合

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の MAPI サービスは、Connector インストールの必須コンポーネントですが、Sun ONE Sync プログラムと共存することができません。Sun ONE Sync がユーザーのワークステーションにインストールされている場合、セットアップウィザードは、この問題をユーザーに通知し（「ようこそ」画面の後にエラーメッセージを表示）、確認の上プログラムを終了するよう指示します。次の手順に従って、Sun ONE Sync プログラムを削除した後で、セットアップウィザードに戻ることができます。

1. 「スタート」メニューから、「プログラム」> 「Sun ONE Synchronization」> 「Uninstall Sun ONE Synchronization」を選択します。
2. アンインストールウィンドウで、画面の指示に従ってソフトウェアをアンインストールします。
3. 「Finish」をクリックしてアンインストール処理を完了します。

Palm デバイス、WindowsCE デバイス、または Pocket PC デバイスを Outlook と同期させる場合は、Sun ONE Synchronization ソフトウェアではなく、そのデバイスに付属する同期ソフトウェアを使用することを強くお勧めします。デバイスに付属する同期ソフトウェアに変更する場合、Palm Desktop ソフトウェアのアンインストールと再インストールが必要になる場合があります。

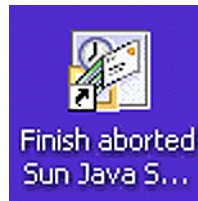
他のデバイスのデータとの同期に Sun ONE Synchronization ソフトウェアを引き続き使用したい場合は、Sun ONE Synchronization を再インストールしてください。ただし、Sun ONE Synchronization のインストール時に Microsoft Outlook 98/2000 translator のチェックボックスを選択しないでください。

個人用フォルダ (.pst) ファイルの変換が中断された場合

個人用フォルダ (.pst) ファイルの変換は、大きなファイルの場合、数十分から数時間かかることがあるため、停電などでこの処理が中断されて最初から長時間の処理を繰り返さなければならないとすると、非常に不便なことになります。このため、セットアップウィザードには復旧機能が用意されています。これを利用すると、中断された変換を中断された場所から再開できます。この復旧機能は、「大きな」個人用フォルダの変換中に中断が生じた場合にのみ使用できます。プロファイルの変換中や小さな .pst ファイルの変換中には使用できません(「大きな」ファイルと「小さな」ファイルを区別するサイズの制限は、ネットワーク管理者があらかじめ設定しています)。

大きな .pst ファイルの変換が中断された場合、ウィザードは、一時的に「Finish Aborted Sun Java System Connector Wizard Conversion」という復旧機能のアイコンをデスクトップに追加します。元の変換のときのようにセットアップウィザードを再び起動した場合、復旧機能は機能しません。図 2-1 に示すように、デスクトップの「Finish」アイコンから起動する必要があります。

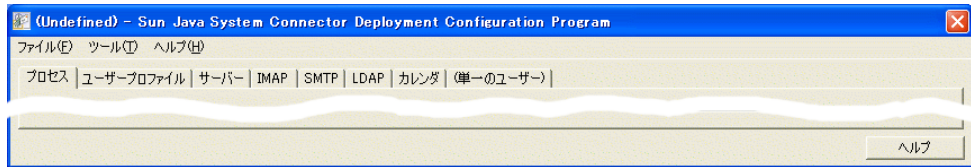
図 2-1 中断された変換を完了させるには: デスクトップの「Finish」アイコン



中断された変換を完了させるには、デスクトップの「Finish」アイコンをダブルクリックして、復旧モードの Sun Java System Connector セットアップウィザードを起動します。

図 2-2 に示すように、「Welcome」画面が表示され、不完全な変換が検出されたことが示されます。

図 2-2 セットアップウィザードの「Welcome」画面: 中断された変換を再開させるには



この復旧手順は、このインストールガイドの第 1 章で説明した本来のセットアップ手順を簡略にしたものです(「デスクトップでのソフトウェアのインストールと設定」を参照)。ウィザードでは、中断されたときに変換対象として選択したユーザープロファイルと個人用フォルダ (.pst) ファイルを記憶しているため、同じ情報を再度入力することはありません。

この代わりに、ここで表示された「Welcome」画面で「Next」をクリックすると、ウィザードはスキップして、本来のセットアップ手順の手順 5 または 6 に進みます。このコンピュータで以前に Outlook を使用していた場合は、以前の Exchange のログイン情報を入力し(手順 5)、新規 Outlook ユーザーの場合は、新しい Sun Java System アカウントのログイン情報を入力します(手順 6)。手順 5 または 6 から先の手順は同じです。段階的な手順については、このインストールガイドの本文を参照してください。

索引

E

- Exchange アカウントのログイン情報, 19
- Exchange メモ、変換, 17, 23
- Exchange 履歴、変換, 17, 23
- Exchange 連絡先、変換, 17, 23

M

- Microsoft Exchange のメールボックス情報を入力, 19
- Microsoft Web 発行ウィザード、インストール, 14
- Microsoft Web 発行ウィザード, 26
 - インストール, 13

O

- Outlook ユーザープロファイル
 - 複数の変換, 17
 - 変換, 15

S

- Sun Java System のユーザー情報を入力, 20
- Sun ONE Sync プログラムと互換性がない, 13, 26, 28

- 「Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の設定を完了中」(画面), 25

あ

- 空き時間スケジュール, 13

こ

- 個人用フォルダ (.pst) ファイル, 17, 21, 23, 29
 - パスワード, 21
- 個人用フォルダ (.pst) ファイルのパスワードを入力, 21
- このマニュアルで使用する表記上の規則, 9

さ

- 最小インストール要件を確認中, 14

し

- システム要件, 11
- 「終了」画面, 25
- 進行状況メーター, 23, 24

せ

セットアップウィザードの「Welcome」画面

中断された変換を再開させるには, [29](#)

セットアップウィザードのインストールパッケージ,
[7](#)

セットアップウィザードの起動, [12](#)

セットアップウィザードの変換プログラム, [7](#)

セットアップウィザードの「ようこそ」画面, [12](#)

セットアップ失敗 (画面), [25](#)

ち

中断された変換, [11, 29](#)

て

適格な Outlook ユーザープロファイル、定義済み,
[15](#)

デフォルトの電子メールクライアント, [12, 26, 27](#)

は

バックグラウンドプロセスでの .pst 変換を完了中,
[24](#)

へ

変換する Outlook ユーザープロファイルを選択, [15](#)

変換する個人用フォルダ (.pst) ファイルを選択, [17](#)

ゆ

ユーザープロファイルを変換中, [23](#)